会　　議　　録

会議の名称	平成２８年度第４回小川町地域公共交通活性化協議会			
開催日時	平成２９年２月２４日（金） 開会時刻　午前１０時００分　　閉会時刻　午前１１時４０分			
開催場所	リリックおがわ　２階会議室			
出席者	会長	尾崎　晴男	副会長	大山　澄男
	監査委員	山岸　幸男	監査委員	小久保　文雄
	委員	山﨑　浩司	委員	古屋　仁
	委員	畦地　英樹（代理）	委員	高橋　貴和
	委員	大山　博（代理）	委員	神原　正夫
	委員	田端　健二	委員	柳田　祐之
	委員	小瀧　正和（代理）	委員	山口　勝士
	委員	柏俣　厚一	委員	小川　新一
	委員	安野　育男		
会議の議題	(1)　実証実験状況報告（登録者数、開始後１ヶ月の利用者数） (2)　各種データの収集方法について (3)　利用登録者アンケートについて (4)　小川町地域公共交通再編実施計画（素案）及び平成 29 年度業務委託について			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由	―			
傍聴人の数	２３名			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別紙のとおり			
事務局	都市政策課 都市政策担当			
議事の確定	確定年月日	平成２９年　３月　８日		
	記名押印	役職名 会長　　尾崎　晴男　　㊞		

別　紙

発言者	発言の要旨
	(1)　実証実験状況報告（登録者数、開始後１ヶ月の利用者数） (1)について、質疑・意見等なし **(2)　各種データの収集方法について** **(3)　利用登録者アンケートについて**
古屋委員	アンケートは世帯ごとに配布するのか？
事務局	アンケート調査票については、世帯ごとではなく、利用登録者１人ひとりに対して発送する。
畦地委員	データ収集方法として整理している中で、バス利用者への影響を調査するということだが、一般的にはバスと同様にタクシーにも影響が出てくると思う。タクシー利用者のデータは調査するのか？
事務局	町内に乗り入れているタクシー事業者は、デマンドタクシーの運行事業者である小川観光タクシーさんと森林公園交通さん（４台分）となっており、実証実験終了後にヒアリングを行いたいと考えている。
会長	調査にご協力いただく委員の方もいらっしゃるので、ぜひよろしくお願いしたい。アンケートについては事務局案で進めていただきたい。
	(4)　小川町地域公共交通再編実施計画（素案）及び平成 29 年度業務委託について
畦地委員	昨年度策定された地域公共交通網形成計画においては、既存路線バスの維持・充実が掲げられており、小川パークヒル路線・ときがわ町路線は、町民ニーズを踏まえて実際に路線再編が実行されている。このような経緯もあるため、再編実施計画においても既存路線バスの維持・充実をしっかり書き込んでいくべきである。近年は、高齢者の免許返納が社会的な課題となっており、実際は返納したい意思があっても、代替の移動手段が確保されていないため返せない状況にもある。こういったことも踏まえ、町民が安心して公共交通を使ってもらえるような計画内容になってほしい。
事務局	ご指摘の通り内容を修正していく。
山口委員	ここまでのデマンドタクシーの実際の利用状況を見ると、デマンドタクシーを利用して鉄道・バスに乗り換えようとする人は少ない状況である。このような中で、事業者さんへのヒアリングの際には、デマンドタクシーからの乗換え利用の増加につなげていくために率直な意見を是非聞いてほしい。

別　紙

事務局	ご指摘の通り、事業者ヒアリングの際に聞いていきたい。
会長	平成 29 年度業務委託については、これまでの取組との関連性が強いため次年度も随意契約でお願いするということで問題ないか。
各委員	※原案のとおり承認
	(5)　その他
山岸委員	再編実施計画（素案）の P8.事業効果の中で、公共交通利用者の維持を記載しているが、将来的な八高線利用者数はどのように見込んでいるのかお聞きしたい。
柳田委員	鉄道利用者は 15 歳～65 歳の方々となっており、八高線のお客さまは定期利用者が多く、ほとんどが学生のご利用となっている。社人研の推計によると 2040 年には、八高線沿線のこの年代は 30%減少すると予測されており、現在の乗降人員からその減少率で推測すると 30%減少するということになる。また、鉄道利用者のほとんどが徒歩又は自転車という調査結果もあり、駅から１５分圏内にお住いの方々が多く鉄道を利用していることになる。つきましては、鉄道利用促進を図るため、駅を中心としたまちづくりをお願いしたいと思う。
山口委員	以前、東小川の住民と意見交換する機会があった。その際に、住民から見て路線バスにどのような工夫が考えられるか正直な意見を聞いたところ、日赤病院をまわる路線になれば利用機会が増えるのではないかと言っていた。その意向が今回の小川パークヒル路線の変更により実現されたが、実際に利用者増加につながってくるのかというと、またそこに大きな壁がある。個人レベルではなく、エリアとしての価値がどう変化するのか意識していくことが必要であるため、単に路線が変わったことを周知するだけでなく、住民が意識を共有し自分たちで考えていく良い機会につなげていくことをお願いしたい。
山岸委員	日赤病院の裏で太陽光発電をやりたいということで、工事車両用の道路を整備しているが、これが完成すると病院の周回道路のようになる。現状では入り口が１カ所しかない中で災害時に活用でき、隣接地を駐車場に活用することもできる。是非、公共交通の一部として検討してほしい。
古屋委員	ときがわ町路線については、馬橋の工事完了まで迂回ルートとなるようだが、工事完了はいつごろとなる予定なのか？
高橋委員	工事完了は３月３１日の予定である。ただし、場合によっては河川との接続の影響や天候等により工期が若干伸びる可能性もある。
事務局	山口委員がご指摘の件は、特に東小川地区への周知に取組んでいきたいと考えている。

別　紙

	山岸委員のご意見は担当課にお伝えしたいと思う。柳田委員のお話は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも人口減少は見込まれている中で、鉄道はやはり本町における公共交通の基幹と捉えている。小川町にたくさんの来訪者に来てもらうことにより維持できるようにしていきたいと考えている。
田端委員	弊社でデマンドタクシーを運行させてもらっているため、状況を報告させてもらう。実験開始当初は利用者が少なかったものの、今では増加してきている。運用上のこととしては、開始当初には運賃のもらい間違いも一回あったが、帰りの利用時に支払ってもらったということもあった。利用者からは、金融機関や各地区の公会堂を乗降場所に入れてほしいと要望が多数寄せられている。また、登録者証の関係で、どうしても高齢の利用者だと登録者証を持って電話ができなかったり、バックの中に入れて取り出せなくなる等のケースもあるため、本格運行時には首から下げられるタイプにした方が良いと思われる。また、健康福祉課で発行しているいきいきタクシー券があるため、無くなるまではデマンドタクシーを利用しないという方もいるようであった。竹沢地区等からは、本格運行時にはぜひ運行してほしいとの要望も聞いている。
事務局	本日はこれにて散会とさせていただく。 以上